

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台への 「火焰型土器」の採用と縄文文化の発信について

北信越部会提出  
説明担当 三条市

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは、我が国にとって大変名誉なことであるとともに、スポーツはもとより日本の文化を今以上に世界に発信する好機であると国民の皆さんも大きな期待をもってその日を待ち望んでいると思います。

また、東京オリンピック・パラリンピックの観覧のため、世界各国から訪れてくださる多くの皆さんを、日本全体でおもてなしの心をもってお迎えしたいと考えております。

さて、日本文化の発信には歴史的な観点も考えられます。

新潟県内で出土した縄文土器を代表する火焰型土器は、その形状が燃え上がる焰（炎）に似ていることからこの名称が付けられたもので、日本文化の源流であり、他の日本文化と並ぶ厳然たる存在であります。

また、火焰型土器は本県のみならず長野県からも出土しており、その文化圏は信越にまたがる広範なものと言えます。また、縄文時代の遺構・遺物は富山県や石川県、福井県といった、いわゆる北信越エリアの各地でも確認されています。

一方、火焰型土器とは趣の異なった造形として土偶がありますが、その中には、国宝に指定されたものもございます。火焰型土器や土偶、このいずれも日本文化の源流と言える縄文の先人達の息吹が感じられるものであり、これをオリンピックの舞台で世界に発信することは、大きな意義あるものと考えております。

つきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックに際し、縄文文化の一端が全世界に発信できるよう、下記の点に特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

### 記

- 1 火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に採用すること。

- 2 日本文化の源流と言える縄文の先人達の息吹を伝える土偶などの遺物を  
2020年東京オリンピック・パラリンピックの各種の造形に活用すること。